

人が亡くなっていたことを知りました。一人は八十七歳の女性でした。御詠歌の道に入り、高野山参拝、四国霊場順拝、大峯山修行などに何度も一緒しました。偶々私の母校の高等学校の先輩でした。もう一人は九十六歳の男性でした。やはり、高野山、大峯山、四国霊場などの仏道修行に一緒しました。

少ない勤務校であるの前身の旧制中学校であり、旧制高等学校でした。

どちらも、大師信族ぐるみで誠を捧げた方でした。長い間お世話になった方で、お年とはいえ残念です。在りし日のお姿を思い浮かべ、私にかけていただいたおことばを一つ一つ思い出しています。

高野山時報
R6年7月11日

師さまに対する冒涇であり、反逆ですらあると考えます。お葬式は、人生最期にして最大の儀式です。ご遺族は勿論、残された私たち関係者は、お悔やみを申し述べるのは勿論、ご生前のお姿を偲び、ご遺徳を顕彰することこそ大切なのです。故人のご一生から

学ぶことが、形だけのお悔やみのことばを述べるよりも、遙かに真にご冥福をお祈りすることになるのではないでしょうか。

お釈迦様の蓮を咲かす冒険④ 番外編

本山への要望

——本山と直接やりとりするシステムへ——

生蓮寺住職・生命科学博士・東京大学先端科学技術研究センター連携研究員 高畑 公紀

高野山真言宗の末寺が何らかの申請を本山に行う場合、支所を通じて行う必要があります。このシステムを支所を通じず、直接やりとりするシステムに変更いただきたいです。支所長にはもともと地域の未来に関わる仕事に時間を割いてもらいたいのです。

末寺が本山に申請を行う際、支所長の判子が必要ですが、その判子をもらうために多大な時間が必要です。支所長の自坊へ郵送あるいは持参し、そして支所長から本山へ郵送されます。少子高齢化、インターネット利用による郵便利

用の低下により、郵便の配達日数が延びており、配達料も値上げされます。そして今後とも改善される見込みは考えにくいのです。

支所長が急病になったり、葬儀が重なったり、出張に出かけていたら、それだけで事務がストップしてしまいます。そして支所長も人間ですから出し忘れ等のミスもありえます。もし支所長が出し忘れのミスをしたら誰が責任をとるのでしょうか？ 今年二月、福岡市の私立中学校で教員が高校入試の出願を出し忘れて、生徒が志望校を受験できなく

たずらに時流に流されて考え直すのではなく、お大師さまのみ教えをお伝えする私たち僧侶が基本に立ち返って襟を正す必要を感じる今日この頃です。

合掌
(令和六年四月二十一日、大石順教尼五十七回忌、記之)

(兵庫県多可町)

なった事件がありました。同じことが起こり得ます。申請者が直接、本山に申請できれば、支所長はもともと有意義なことに時間を割くことができますし、事務の迅速化が達成できます。

山に連絡して質問します。そして支所長も疑問点があれば本山に質問します。本山職員は申請者と支所長の二人から質問を受ける事になります。直接やり取りをするようになれば支所長からの質問は無くなります。また申請書にミスがあれば、支所を経由して申請者に伝達されるので、その間、本山職員は待ちぼうけの状態になり、事務はストップしたままになります。このような理由から本山職員の負担軽減の可能性にあります。そしてもし質問が多数あつて本山職員に負担が掛かる場合は、それは申請書の形式や記載例に原因があるのであつて、そこを改善すればいいのです。

高野山山内寺院と全国にある本山直轄寺院は、すでに直接持参あるいは郵送で申請書を提出しており、問題なく事務が行われています。事務の簡素化、効率化、支所長の有意義な時間捻出のために申請書の提出を直接本山に持参あるいは郵送できるシステムにしたいです。可能なら申請書をメールで添付することで提出できるようにしたいです。